

新年のごあいさつ

令和6年の新春を迎えて

津市長 前葉 泰幸

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが変更され、ようやく社会経済活動が正常化に向けて動き出した一方で、出口の見えない物価高騰が市民生活や地域経済に影響を与え続けた一年でありました。津市では物価高騰対策として、全ての市民を対象にした「暮らし応援津市プレミアム付商品券2023」の発行など、きめ細かい支援策を展開してまいりました。

また、4月には国がこども家庭庁を発足させ、子育て支援が「福祉政策」から「こども政策」へと大きく舵を切った年でもありました。津市では7月から市内全ての保育所等を対象に、持ち帰ることが保護者の大きな負担となっていた使用済み紙おむつの回収処分事業を開始するなど、子育て支援の拡充を行ってまいりました。

さらに、9月には津駅周辺における国のバスタプロジェクトの具体化に向け、東口については地域や関係団体等で構成する「津駅東口周辺まちづくり懇話会」を、西口については「津駅西口駅前広場エリアマネジメント会議」を設立するとともに、大門・丸之内地区については、10月から11月にかけてキッチンカーや人気店の出店によるにぎわい創出の可能性や道路空間の在り方を検証するための実験を行うなど、都市づくりへの取り組みを始めました。

令和6年、これらの取り組みを進展させ、未来に向けてさらに歩みを進めます。

こども政策については、4月から私立保育所等での保育士等の確保のため、新たに津市の保育所等に就労していただく保育士・幼稚園教諭等に20万円を給付する事業を開始し、9月からは子ども医療費助成の所得制限の撤廃と窓口無料化の中学生までの拡大に加え、津市の独自施策である妊産婦医療費助成についても所得制限を撤廃し、窓口無料とします。

津駅周辺については、大谷踏切の本年12月開通を目指し近鉄架道橋の拡幅工事を進めるとともに、国のバスタプロジェクトが具体的な整備方針の検討段階に進むと見込まれることから、三重県とも連携し、懇話会のご議論を踏まえ、整備イメージなど事業構想を深めます。大門・丸之内地区については、地権者の皆様の意向を聴き取りながら、土地利用の在り方の検討を進めます。

市民の皆様が未来に希望が持てる津市、その実現に向けて着実な市政を推進してまいります。

本年が、皆様にとって、笑顔と希望にあふれる一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。